



箕輪奇談

卷之四

~ 13  
3383  
4





13  
3383  
4

余儀



名古物、誌巻の尻

月録

- ・ お類、意、水の、麻、の、事
- ・ 七、次、帝、帳、美、と、事
- ・ お、結、事、の、事

終

大正十年八月廿九日  
本大學出版部贈

富香

天上

石川五

五	五	八
十	四	七
九	三	六

政 文 拾



か南か小の六助市川  
百吉金花乃乃吉

一ツ木金

①し流師

天一寺上

市村竹根

市村度

中村度

名古相熟巻の尻

お新氣痛の尻

三平海、云り、と、新、も、彼、の、度、更、は、  
し、の、度、に、お、目、あ、る、は、  
あ、の、能、あ、ら、は、  
波、あ、ら、は、







いと遠くあらんとしと波の女  
りや人遠くよふなりは老  
しる身とていと神を仰つ  
けまむひりる体の葉をばり  
しり物理をた連く入る二階  
よりとちりて身とて婦人さか  
せりしと七次節のよはるる  
押よと七次節のよはるる

あはれに  
いと遠くあらんとしと波の女  
りや人遠くよふなりは老  
しる身とていと神を仰つ  
けまむひりる体の葉をばり  
しり物理をた連く入る二階  
よりとちりて身とて婦人さか  
せりしと七次節のよはるる  
押よと七次節のよはるる











志居を大以部 志事を唱  
りしが大以部 以の外 おどろき  
志事し 柳の目 又上の思ふあはれ  
是しぞ ぞ 能く 漢を し ぞ あらふ  
海 新 しく 又上の思ふあはれ  
阿の海 ぞ しく しく しく しく  
志事 梅 句 しく しく しく しく  
三平が 思ふ しく しく しく しく  
程 亦 亦 亦 亦

神明 しく しく しく しく  
唱 しく しく しく しく  
酒 しく しく しく しく  
海 しく しく しく しく  
志事 しく しく しく しく  
二ヶ月 しく しく しく しく  
世 しく しく しく しく























書部部ししるの岩新と高  
洞窓の何人あまは是か娘と十八  
しあまを容やむと斯を討まの事  
嫁人し親類内の人をれが早  
えん人をも津しよ熱殺のし  
吉と名し二月初旬し川  
らんと結末と定あし知彼の娘  
娘しつゆを討候しをを迎し

金出豊成あまが橋あま  
被漢しあまを居すし麻布の  
酒之店しそ丸部幸八としお者の  
妹松去りあまが是し容を  
麻布し器店ししあまを討あま  
沼尻美子あまを居候し沼尻  
七月女入り川石橋を居あまの  
あましし詩女部しし媒人し



出遣たる人  
岩倉と新理の敵と稱せられたる  
肉の混雜大なるありては家女と  
七ツ時までも入るべきこと  
時法を支拂多額と稱する者  
あつてもを後と名づく民衆の  
古名の長遠ありては  
ゆゑに

地灯さざりし中  
一向の長遠ありては  
紹も事及外遠ありては  
屋敷ありては  
そとありては  
かゝるものありては  
何れも  
家女嫁入る長養の終りては



























久々都へ来て居る  
久々都へ来た事いと  
幸あらば波のお結と我の婦。  
早急ありて死に  
十日の時長列の  
船の上へ坐して  
どの始りて進舟し  
あこ

事我が婦と極生あり  
入魂の形州の事  
蝶とあつて  
婦智し  
もの葉く  
と松と我多  
ゆへに  
美り















